

平成 29 年 5 月 26 日

守谷市議会議長 殿

報告者： 砂川 誠

守谷市議会・守谷市合同視察・研修報告

標記の件について、次のとおり実施したので報告します。

| | | |
|----------------------|--|--|
| 視察・研修日 | 平成 29 年 5 月 23 日 (火) | |
| 視察・研修場所 | 神奈川県南足柄市女性センター研修室 | |
| 視察・研修項目 | 南足柄みらい創りプロジェクト | |
| 参加者 | 守谷市側 | 松丸市長、生活経済部・坂部長、議会事務局・菅谷事務局長、坂局長補佐、 守谷市議会・梅木議長、市川副議長、渡辺議員、砂川議員、神宮議員、堤議員、浅川議員、末村議員、高梨(隆)議員、長谷川議員、青木議員、佐藤議員、山田議員、寺田議員、高梨(恭)議員、高橋議員、川名議員、佐藤議員、伯耆田議員 |
| | 相手側 | 南足柄市議会・内田議長、議会事務局・山岸次長、湯川書記、南足柄市企画課・日比野課長、 富士ゼロックス(株)復興推進室みらい創り・西、弓岡、 |
| 視察・研修目的 | 東日本大震災後の災害ボランティアを通じ、遠野市のみらい創り活動を進めた富士ゼロックス(株)のノウハウを活用し、地域の活性化を目的にした様々な活動を、地域の皆様が主体となって実践する地域創生の推進、取り組みを参考とする。 | |
| 視察・研修内容 | ・南足柄市みらい創り活動の概要説明 ・みらい創りカレッジプログラム説明 | |
| 視察・研修総括 (今後の取組み等) | みらい創りカレッジは産・官・学が南足柄市の総合戦略に準拠し、①市民協働、②人材育成、③産業創造、④防災をカレッジのプログラムとして展開、H31年には法人設立し自主財源で運営できる組織にする。守谷市でも産・学の特に学との連携で生み出される発想が地方創生においても重要になる。 | |

視察・研修内容

南足柄市概要；人口約 4.26 万人、面積 77.12 k m²

南足柄市みらい創りプロジェクト概要

地域活性化を目的に様々な活動を地域住民が主体で取り組み、市民、企業、大学、行政が対話しチャレンジ行動する。それを企業と行政がサポートする。

1、プロジェクト導入の経緯について

- ・東日本大震災後、岩手県遠野市のみらい創りに富士ゼロックス（株）の社会貢献プログラムで復興推進の取り組みのノウハウを生かし南足柄市は遠野市と同様に震災時に後方支援の拠点になり得る条件を満たしているため今回は、南足柄市と富士ゼロックス（株）が共同で「南足柄市みらい創りプロジェクト」をスタートする。

2、プロジェクト事業内容について

- ・事業財源：地方創生推進交付金、一般会計予算（ふるさと納税基金等）
- ・カレッジプログラムを4つの領域でコミュニケーション技術を活用したプログラムの開発・展開
 - ① 協働（市民協働）
 - ② 人材育成（地域創生を牽引する）
 - ③ 産業創造（商品メニュー開発）
 - ④ 防災（後方支援の研究）
- ・南足柄市を知ってもらい（魅力発掘）対話会を年数回行いテーマを探し出し、テーマに沿っての活動及び報告会（計画・立案・発信）を行う。
- ・H28年度 拠点構築の準備
H29年度 拠点活用試行検証 [遠野市実施プログラムの移植]
H30年度 カレッジ主体を法人にし独立化を開始する

3、プロジェクト運営について

- ・H31年には法人として独立予定
- ・法人は南足柄市から総合戦略に準拠する企画の委託を受け、シンクタンクとし公益事業や各種プログラムの提供を行う。富士ゼロックス（株）や協力企業、団体等は法人へのプログラムの実践依頼に必要な人材提供を行う。
- ・法人は市民・交流組織（利用参加者）からカレッジプログラムによる、体験学習、研修施設利用、宿泊施設利用また、カフェ機能等からの収益で運営を行う。

4、質疑応答

Q、法人としてプログラムの売先は？

A、仕組みは未定だが、売り先は行政や企業を想定している。